

## 「何をするか」より「誰とどこまで目指すか」

トヨタ自動車株式会社  
FC製品開発部 システム部品設計グループ 和田 将志

私は2018年3月に大阪大学 工学研究科 応用化学専攻博士前期課程を修了しました。在学中は木田敏之先生のご指導の下、高分子化学に関する研究に励み、充実した研究室生活を送ることが出来ました。その後トヨタ自動車株式会社に入社し、現在3年目になります。

本稿では研究室時代の振り返りと現在の会社生活について、そして最後にこれからの抱負を述べたいと思います。

### 研究室時代の振り返り

一番思い出に残っているシーンは企業との共同研究テーマについて木田先生、後輩、私の三人でチームを組み、実験に励んでいたことです。厳しい納期に追われながら実験データをチームで議論し、改善策を考えて実験をやり直す。このサイクルを繰り返していました。チャレンジングなテーマであり進捗が出ない日々が続く中、ようやく兆しが見えるデータが取れ、すぐに教授室に駆けつけ木田先生に報告したことを覚えています。他にも一人で担当させて頂いたテーマもあったのですが、チームで成果を出すことができた喜びが私にとって大きかったです。この経験から、どんな研究をするかよりも、仲間とチームで目標のため試行錯誤する日々には自分はやりがいを感じる事が出来ると気付きました。プロジェクト半ばで卒業を迎えてしまったことが心残りでしたが、今でもとても印象に残っています。

### 現在の会社生活について

私は根っからの体育会系人間で、学生時代、スポーツと研究に熱中していたように社会人になれば自らが熱中できることを仕事にしたいと思っていました。その延長線上にトヨタ自動車があったのはリクルート活動で知り合った先輩社員の影響です。学生たちに自分の仕事を熱く語る姿を見て、自動車の知識などは人並み程度の私でしたが、直感でこの人達と働きたい、この会社に入りたいたいと思いました。

入社してからは希望していたFC製品開発部に配属されました。(FC: Fuel Cell 燃料電池) この部は燃料電池車の

設計・開発がミッションです。学生時代、有機化学や高分子化学を専攻していた私にとって自動車開発は畑違いの分野で、背景知識の少なさに苦戦することも多いです。3年目の今でも新しい学びが毎日あります。とはいえ自動車業界での燃料電池というまだまだ先進的な技術であるが故に、私以外のメンバーも皆、若手ベテラン問わず燃料電池車を1から勉強し開発業務に励んでいます。様々な分野で経験を積んできた技術者が集まっているため、常に新しい発見や刺激に溢れています。何より部員全員が水素社会の実現に向け精力的に業務を進めており、学生時代の直感を信じこの会社に入社して良かったと思っています。

### これからの抱負

最後にこれからの抱負を2つ書きたいと思います。

1つ目は会議での議論をリードするスキルを磨くことです。入社してから今まで、メンバー間の意見の折り合いがつかず、会議が発散する場を多々見てきました。そんな時、現状の課題は何なのか、問題の本質を見極め、最適判断に周りを導くことができる技術者になりたいです。一朝一夕で身に付くスキルでない事は承知していますが、日々の積み重ねで少しずつ、なりたい理想像に近づきたいと思います。

2つ目はいつまでも若く、暑苦しい自分で居続けることです。高校球児が真夏の炎天下の中「この仲間と共に、甲子園に行きたい」と思うように、私も「トヨタ自動車の仲間と切磋琢磨し、燃料電池車が街中に溢れる日が来るまで」走り続けたいと思います。

現在は設計者としてようやく自分の担当部品を与えて頂いたばかりの駆け出しですが、この気持ちを忘れず、夢に向かって邁進したいと思います。

結びといたしまして、このような執筆の機会を与えて下さった、恩師・木田先生に深く御礼申し上げます。

(応用自然 平成28年卒 応用化学 30年前期)